

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4091800104
法人名	社会福祉法人 幸友会
事業所名	グループホーム ひより
所在地	福岡県飯塚市上三緒1-11 (電話) 0948-21-7500

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	直方市知古1丁目6番地48号		
訪問調査日	平成20年7月5日	評価確定日	平成20年7月25日

## 【情報提供項目より】(平成20年 6月 30 日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 8 月 1 日		
ユニット数	2	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	18 人, 非常勤 人, 常勤換算 10.8 人

## (2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階～階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	19,000 円	
敷金	(無)			
保証金の有無 (入居一時金含)	(無)	有りの場合 償却の有無	(無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(6月30日現在)

登録人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名	
要介護1	2	要介護2	7			
要介護3	5	要介護4	1			
要介護5	0	要支援2	2			
年齢	平均	87 歳	最低	63 歳	最高	95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	梶原内科医院 越智外科胃腸科医院 ユーアイ西野病院 しもみお歯科 ふじい歯科 あおぞら整形
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街を見下ろす丘の上に昨年8月に開所した2ユニットのグループホームひよりは、広い敷地に小規模多機能居宅介護と一体となって運営されている。行政や教育分野で福祉に係わった施設長・副施設長が中心となって、地域における総合的な地域密着型サービスのモデルとして保険者と連携しながら、ホーム理念である「家庭的で尊厳のある生活・楽しみと安心な生活・地域社会とのつながり」を具現化しつつある。運営推進会議のメンバーである地域の方々からの意見等で、地区公民館で開催されている「いきいきサロン」に入居者が参加したり、副施設長が地域密着型サービスの説明や介護保険サービス給付申請について説明している。参加した入居者の「楽しかった!」との声は、地域との交流が大切であることを物語っている。多忙な業務の中、全職員で構成する業務改善委員会、行事企画員会等が組織され、その内容を毎月開催するスタッフ会議で話し合うなど、運営者、職員等がそれぞれの権限や役割を実践することで、より適切な業務運営やケアを目指している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回、初回外部評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホーム独自で全職員が自己評価を実施するなど、運営者、管理者は評価の意義を理解している。今回初回の外部評価で、管理者等を中心に実施した自己評価票を職員に回覧している
重点項目②	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議規則を定め、適切なメンバーにて2ヶ月毎に開催している。会議では事業内容等を報告しているが、入居者名を伏せる等個人情報の保護に留意している。議事録を整備し、保険者に開催状況を報告している。運営推進会議のメンバーの提案で、地域のいきいきサロンで会報「ひより」を配布し、ホームを紹介している。管理者はその折、地域密着型サービスにおける「介護」のあり方や介護保険サービス給付申請等を説明している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	入居者の暮らしぶりや健康状態は家族の来所時や電話で随時報告したり、会報「ひより」を家族に配布している。職員を担当制にしているため、ユニット間の職員異動は家族に報告している。金銭の預かりはなく、日用品等の購入代金はホームが仮払いをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区町内会に加入していないが、町内会から招かれて8名の入居者が地域のいきいきサロンに参加している。7月には玄関前駐車場で子どもミニ花火大会を開催したり、獅子舞が巡航するなど、地域住民と交流を予定している。また、地元消防団の協力を得て火災訓練を実施したり、道路真向かいのショッピングセンターにも理解や協力をお願いしている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの理念を運営規定、重要事項説明書に明記している。また、ホームの理念である「家庭的で尊厳のある生活・楽しい生活・地域社会とのつながり」をパンフレットに記載し、共用空間に大きく掲示している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を全職員で朝のミーティングで唱和している。介護計画にホームの理念である地域との交流を具現化した長期・短期目標を設定している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区町内会には加入していないが、町内会から招かれて8名の入居者が地域のいきいきサロンに参加している。7月には玄関前駐車場で子どもミニ花火大会を開催したり、獅子舞が巡航するなど、地域住民と交流を予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム独自で全職員が自己評価を実施するなど、運営者、管理者は評価の意義を理解している。今回初回の外部評価で、管理者等を中心に実施した自己評価票を職員に回覧している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議規則を定め、適切なメンバーにて2ヶ月毎に開催している。会議では事業内容等を報告しているが、入居者名を伏せる等個人情報の保護に留意している。議事録を整備し、保険者に開催状況を報告している。運営推進会議のメンバーの提案で、地域のいきいきサロンで会報「ひより」を配布し、ホームを紹介している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域で唯一、認知症対応型共同生活介護・小規模多機能居宅介護を一体として運営していることから、常に保険者から情報を得ている。隣の市から民生委員団体が当事業所を見学するなど、地域密着型サービスのモデル事業所として期待されている。管理者は参加したいいきいきサロンで、地域密着型サービスにおける「介護」のあり方や介護保険サービス給付申請等を説明している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修に参加し、職員に資料を回覧している。入居者や家族に制度活用の希望がないため、制度等の説明はしていない。	○	認知症の特性から、入居者・家族に成年後見制度等を説明する資料等を整備するとともに、入居時や状況に応じて随時制度等の情報提供をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態は家族の来所時や電話で随時報告したり、会報「ひより」を家族に配布している。職員を担当制にしているため、ユニット間の職員異動は家族に報告している。金銭の預かりはなく、日用品等の購入代金はホームが仮払いをしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び保険者等の意見・苦情窓口を明記している。家族の交流会を家族会と位置づけ、家族の意見を伺ったり、ホームの現状を報告している。	○	今後も家族に誕生会や行事参加を呼びかけたいとのことであるので、その折に家族同士の交流の機会を設けていただきたい。また、レクリエーション・行事記録に参加家族の意見等の記載もお願いしたい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当制にしてなじみの関係づくりをしているが、職員・入居者の相性や共用空間を2ユニットで活用することを考慮し、ユニット間で職員を異動している。管理者は職員の離職を防止したいと資格取得情報を提供したり、業務相談に応じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用は取得している資格ではなく、本人の「やる気」を重視している。雇用契約書を取り交わし、健康診断を支援している。職員専用浴室や休息室が整備され、全員参加できるように忘年会を2回にわけてするなどいきいきと働ける環境づくりがある。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	運営規程に身体拘束について明記し、契約書には入居者の権利を謳っている。朝礼やスタッフ会議で人権について、話をしている。	○	参加した人権研修内容を全職員に周知した記録の整備や身体拘束防止・高齢者虐待防止マニュアルの作成が望まれる。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、認知症実務者研修やAEDによる救急救命法の研修参加を支援したり、資格取得に関する情報を提供している。参加した研修内容は全職員に回覧している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者が地域の介護サービス事業者と顔見知りであることから、設立時他のグループホームに職員研修をお願いしたり、情報を交換している。今後は情報交換等のためにも同業者団体で研修したいと話している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域の社会福祉協議会や介護支援専門員、介護サービス事業者等の紹介による入居が多いが、日がえりの体験利用や体験入居から入居に至っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	最近パートナーが出産した職員や近々出産予定の職員に、人生の先輩である入居者から出産や育児に関するアドバイス等があり、信頼関係が伺える。園芸経験のある入居者にアドバイスをもらったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向や担当者会議内容に沿って、日々のケア内容を具体的に週間計画表に記載している。	○	より個別的・具体的な介護計画を作成するために、生活暦・職歴の整備をお願いしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書に入居者や家族の意向を明記している。担当者会議を開催しているが、入居者や家族の意向を話し合った記録がない。	○	担当者会議では職員による話し合いは充分に行われているので、入居者や家族の意向の確認や変更について話し合った記録が求められる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況に応じて担当者会議を開き、定期的に介護計画の見直しをしている。見直した介護計画は入居者や家族に説明し了承を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて、希望する医療機関への受診や買い物を柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの往診や希望する医療機関の受診で、健康管理をしている。主治医からの指示を遵守するために、看護職が内服薬等を管理し、受診情報を全職員に申し送りしている。医療受診内容は随時家族へ電話などで連絡している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	交流会で家族から終末期や看取りが心配との意見が出ている。家族や主治医と話し合い、方針を共有しているが、重度化した入居者の対応や看取りについての具体的な方針は今後の課題としている。	○	今後、入居者の状況の変化が予測されることから、重度化や終末期に向けた指針を作成し、状況に応じて家族や関係者一同でより良い過ごし方を協議していただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規程、入居契約書、重要事項説明書、運営推進会議規則に守秘義務及び個人情報の利用について明記するとともに、事務所に重要事項説明書を掲示している。就業規則に守秘義務を明記し、スタッフ会議等で入居者の人権について話し合い、意識の向上に努めている。職員は入居者の尊厳を重んじた声掛けや対応をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを把握した対応で、歩行器利用者が杖で歩行できるようになった。業務改善委員会で入居者の意向を検討したり、入居者のその日の気分や希望でドライブや買い物に出かけたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力量に応じて、買い物・下ごしらえ・食器洗い・食器拭きを支援しているが、訪問調査当日にも、割烹着を着用し、厨房で生き生きと食器洗いをする入居者がいた。運営者の「いただきます。」の挨拶で昼食を摂っている。各テーブルで伴食する職員は食事介助をしながら、入居者とメニューについて話している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	性別で入浴日が決められているが、希望があれば入浴日以外でも入浴できる。大小3つの浴槽が設置され、入居者の状況に応じた対応している。入浴拒否には時間をずらしたり、入浴するきっかけをつくる等で対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事企画委員会を設け、入居者の状況や希望でレクリエーションをしている。訪問調査当日は共有空間に七夕飾りがあった。入居者の生活歴や職歴等から、敷地内の畑で野菜を作り、水遣りや追肥、草取りをお願いしたり、雑巾を縫ってもらったりしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見や地域の祭り見学など年間行事の外出ばかりでなく、天候が良ければ、敷地内を散歩したり、ディサービスの利用者を送る車に同乗してドライブしたりしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の言動に目配りや気配りをしているが、事務所脇の玄関の自動ドアは日中は電気を切っている。以前入居者が窓から出て行き、捜索願いを出した経緯があり、保険者に相談し現在居室の窓にストッパーを付け、全開できないようにしている。運営推進会議でも報告し、近隣の理解や協力をお願いしている。各ユニットの玄関は非常口としている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策委員会を設け、地元消防団の協力を得て定期的な避難訓練を実施している。緊急連絡網を作成し、事務所に掲示している。消火器や各居室に火災探知機を設置しているが、今後はスプリンクラーも整備予定である。また、トイレトーパーや水を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者毎に食事や水分摂取量を記録している。昼食時には咀嚼や嚥下状態に応じて食事介助や見守りをしている。既往症を把握し、糖尿食や減塩食にも対応している。毎月2回体重を測定しているが、最近入居者の体重が増加傾向なので、主食を少なめにしている。	○	全職員が食事作りに関わっているため、一度管理栄養士に1ヶ月分の献立の摂取カロリーや栄養バランスについて、アドバイスを受けられてはいいかでしょうか。保険者に管理栄養士の紹介を相談されても良いのではと思います。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニットの共用空間は広く、中央にユニット毎に食事用のテーブル・イスが置かれ、周囲にソファも置かれている。畳の間もあり、入居者はゆったりと過ごしている。観葉植物が置かれ、共用空間中央に季節柄七夕が飾りつけてある。ユニット毎のトイレは居室近くに設置され、職員がすぐに対応できるようにドアに鈴を取り付けている。共有空間、廊下の照度も適切である。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室のベットやクローゼットは備え付けであるが、筆筒やテーブル、日用品の持ち込みがある。布団リネン類はリースを利用している。		